横浜丸中青果

システム活用導入以降の効果 **ሥ捗を「見える化**

る化」を推進している。 央卸売市場本場)は、2012年10月から都築 をスムーズに導入し、業務の進捗状況の「見え た。誰でも使いやすい安価で高性能のシステム フィット)マルシェ」を採用している。このほ 務ソリューション「Kit Fit(キット・ 電気(日浦秀樹社長、本社=東京都港区)の業 ご両社で導入以降の効果を検証し、取りまとめ 横浜丸中青果(原田篤社長、本社=横浜市中

(導入の背景) だった。

その回避が喫緊の課題 題が予見されてきており 制限数オーバーやシステ 基幹システムでは、取り ム保守要員確保などの課 扱い数の増加による伝票 それまでの自社開発の P(要件定義書)を作成。 のアドバイスを得てRF えたシステム構築は困 にとどまり「将来を見据 したが、現状機能の踏襲 難」と判断し、三井物産 新たに自社開発も検討 い操作性

新している。 今回、この要件定義に対 もに、基幹システムを刷 ベンダーの都築電気とと 応できるソリューション 地方卸売市場での卸売業 部市場に加え、湘南藤沢 ム連携─横浜市本場・南 め、合計3拠点のシステ 務を開始予定であったた ④複数拠点とのシステ

【新システムの特徴】

①青果卸業務が統合さ

ム連携が可能であること

考慮し、誰でも使いやす や担当者の操作レベルを 方法や商習慣に対応可能 が可能―市場独自の販売 れたソリューション=基 本的な機能を備え迅速か の低コストで導入可能 ③簡単な操作性=年齢 ②細かなカスタマイズ 速なシステム構築にあ ムからのデータ移行や讯 業務ノウハウ=旧システ データ移行 分析が容易 売上傾向や商品毎の利益 ⑥旧システムからの ⑦青果卸売業の業界・ ⑤データ分析が容易=

> 精通したベンダーである せること。

【導入の効果】

現場への的確な指示が出 要な予兆を迅速にとらえ 字を把握、意思決定に必 ルタイムで進捗状況や数 る化」機能であり、リア 業務の進捗状況の「見え 本システムの特徴は、

うのも、他のシステムに モードから、入力の補助 入力作業ができるプロ れたオペレータが素早く ない特長の一つ。 も柔軟に対応が可能とい 面や伝票のカスタマイズ 操作性については、 また、運用に合わせ画



なっている。

電算部門では、システ

たっては、業界・業務に

減できると考えた。 スクのサポート負荷も軽 き、その結果、ヘルプデ わせて3つの入力モード 利用者自身が習熟度に合 れるビギナーモードなど を選べるようになってい 自身が使い勝手を設定で る点を評価した。利用者 メッセージなどが表示さ 伝票類の出力も普通紙 こと)の時間短縮や自動 入荷や販売データの入力 化により、システムオペ の一括処理を実行させる 完了後、売掛・買掛など 活用したユビキタス環境 分の1まで削減できた。 レータの作業時間は約3 ムのバッチ作業(現場で め、スマートデバイスを 今後はさらに効率を高

フォーマンスが向上し、 カット紙化も図られた。 なり、帳票の電子化・ マートかつスピーディに 出力に変更したことでス ケーションなど付加価値 客や生産者とのコミュニ 作業が省け、その分、顧 一度打ちなどの無駄な手 現場ではシステムのパ

どからでも作業ができる

を構築し、出先や自宅な

の時間を使えるように の高い業務に、より多く を進めていく。 ライベートクラウド運用 本システムを強固なデー タセンターに移設し、 画)対策強化とともに、 ようにしたい。 青果物の安定供給を目指 などが発生した場合でも し、BCP(事業継続計 また、自然災害や事故